

◇ ◇ 第二種研究会発表募集案内 ◇ ◇

●テラヘルツ応用システム研究会

委員長 中舎安宏（富士通研） 副委員長 矢板 信（NTT）・笠松章史（NICT）

日時 平成 26 年 8 月 7 日（木） 10：00～17：00（時間は予定）

会場 那覇市内（予定）

概要

未利用周波数帯であるテラヘルツ帯電磁波領域（0.1～100 THz）を積極的に利用し様々な応用技術分野を開拓しようとする研究開発活動が国内外で活発化しています。各種分析・セキュリティ分野で必要不可欠な新しい計測技術としての発展、また、テラヘルツ帯電磁波を用いた無線通信では数十 Gbps を超え 1 Tbps といった超高速無線の実現が期待されています。国内では総務省による研究開発の成果、海外では IEEE でのデファクト標準化、ITU でのデジュール標準化が本格的に動き出す時期であり、テラヘルツ電磁波を用いた非通信分野のみならず、大きな発展が見込まれる無線通信分野においても学術的な側面からテラヘルツ技術活用の場を開拓し、議論していくことの重要性が、更に増してくるものと考えられます。このたび、関連技術分野の研究者相互の情報交換、議論交流を促進する目的で、招待講演、一般講演等による研究会を開催致します。（詳細は研究会 Web ページのプログラムを参照下さい。）

【参加費】（予定、資料代金含む、支払い方法は申込者に別途連絡）

一般：5,000 円、学生：1,000 円

【参加申込】

氏名、連絡先、一般／学生の別を下記申込先まで電子メールでお知らせ下さい。講演発表も希望される方は、発表題目、発表者（著者全員分）、所属（著者全員分）、発表概要（100～200 文字程度）を併せてお知らせ下さい。

なお、定員（50 名を予定）に達した場合、締め切らせて頂く可能性があります。

申込締切：7 月 15 日（火）

【予稿提出】

講演発表希望者は 7 月 22 日（火）までに、予稿（A4 サイズ 1 頁、形式指定なし）を pdf ファイルにて下記申込先に E-mail でお送り下さい。

【申込・問合せ】

担当：安田浩朗・笠松章史（NICT）

E-mail：THzSystem@ml.nict.go.jp

◎最新情報を研究会 Web ページに掲載致しますので、御参照下さい。 <http://www.ieice.org/es/thz/>

主催 テラヘルツ応用システム時限研究専門委員会

●第 10 回再生可能集積システム時限研究会

委員長 上原 稔（東洋大） 副委員長 中尾健彦（東芝）・名古屋 彰（岡山大）

日時 平成 26 年 10 月 18 日（土） 13：00～17：00

※研究会当日は「川越まつり」の開催日となります。

会場 東洋大学川越キャンパス 7 号館 3 階ミニシアター（7302）

21 世紀になって人類の活動が地球環境に及ぼす影響が著しく増大し、環境変動が憂慮されています。このために、特に人類が製造した人工物に関し、その再生利用や再利用を促進する技術開発が強く期待されています。ユビキタス情報社会において、ほとんどの我々の身の回りの人工物に、集積システムが組み込まれています。したがって、これらのシステムの再生、再利用を図ることは、地球環境に優しいという面だけでなく、経済、政治などの面からも重要です。具体的な探求課題としては、直接的な再生、再利用の促進に関する技術開発に加え、ライフサイクル全体の省エネルギー化やコスト削減も重要な探求課題になります。このためには、アーキテクチャの根本的な改革、耐久性の低下した部品において、安心・安全な運用を確保するフォルトトレランス、セキュリティ技術の研究、製造から再生に至るライフサイクルのビジネスモデルの探求などが重要です。このように、本研究では、従来型とは大きく異なった開放的な分野による総合的なアプローチが必要です。

本時限研究専門委員会は、こうした問題意識を持ちながら、リコンフィギュラブル技術、アーキテクチャ技術、ソフトウェア工学、設計技術、システム技術、再生ビジネスモデルなどの分野の研究者の自由な交流を促進し、集積システムの再生、再利用による環境に優しい IT 技術の研究に関して、研究発表及び討論を行う機会を提供します。本研究会は定期的に研究会を開催することにより、関連する研究者に広く技術交換の機会を提供し、産業界と大学等の研究機関の交流の機会を増やすことにより、関連する技術の発展を図っていくことを目的とします。

今回の第10回再生可能集積システム研究会を下記要領で一般発表を募集致しますので、多数の申し込みをお待ちしております。

一般講演申込締切 8月9日(土)

発表を希望される方は、論文題目、著者、所属、連絡先を下記申込先までお申し込み下さい。

【申込先】

上原 稔(東洋大) E-mail: uehara@toyo.jp

◎RIS ホームページも御覧下さい。

<https://sites.google.com/site/renewableintegratedsystems/>

主催 再生可能集積システム時限研究専門委員会

●第6回安全・安心な生活のための情報通信システム(ICSSSL)研究会

委員長 岡田和則(NICT) 副委員長 田村 裕(中大)・中野敬介(新潟大)

私たちの日常生活は、大地震、豪雨、竜巻等の自然災害から、交通事故や誘拐等児童への犯罪まで、様々な脅威にさらされています。これらの被害を避ける、軽減する、更には、大規模災害時の復興や地域再生のために、情報通信システムが果たせる役割は大きいと考えられます。当研究会では、真に役立つ情報通信システムの実現のため、これらの情報通信技術の研究開発だけでなく、災害時に求められる情報の在り方などの社会科学分野などとの学際的な検討を目指しています。

2014年は、偶然にも、新潟県で起こった大規模災害である新潟地震から50年、新潟焼山火山災害から40年、7.13水害(新潟・福島豪雨災害)から10年、中越大震災から10年となり、災害やその対策を考える上で節目の年にあたります。そこで、第6回研究会を、下記のとおり、新潟朱鷺メッセコンベンションセンターにて開催致します。安全・安心な生活に役立つ情報通信システムに関する研究について、幅広く発表を募集致しますので、奮って御応募下さいますよう、よろしくお願い致します。

第6回研究会では、通常の研究発表会だけでなく、国際危機管理学会日本支部と共催で、災害対応の現場で指揮を執る実務者や防災の専門家・研究者による公開フォーラムや災害関連産業展示も併催します。公開フォーラムでは、泉田裕彦 新潟県知事や篠田昭 新潟市長、河田恵昭 関西大学教授(京都大学名誉教授)によるパネルディスカッションを企画しており、教訓や知見を蓄積した新潟から次の世代や世界へ発信する機会を共有したいと考えております。また、NEXCO 東日本新潟支社の御協力により、同支社管内の管制センター等の施設見学会を企画する予定です。

対象分野:安全・安心な生活のための情報通信システムに関する以下の分野

- ・アドホックネットワーク構築技術 ・輻輳制御技術
- ・高信頼無線アクセス技術 ・コグニティブ無線技術
- ・広帯域無線伝送技術 ・ネットワークシステム設計技術
- ・最適配置技術 ・ITS技術
- ・センサネットワーク構築技術 ・災害情報学
- ・災害時行動心理学 ・危機管理情報学

上記に限らず、幅広い分野からの研究発表を募集致します。

発表を御希望される方は、論文題目、著者名、所属、連絡先を、下記の本委員会幹事までお知らせ下さい。

期日 平成26年10月20日(月)~22日(水)

20日(月)午後~21日(火)午前:第6回研究会

21日(火)午後~22日(水)午前:公開フォーラム

会場 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター(新潟市中央区万代島6-1)

発表申込締切:8月8日(金)

参加費:一般2,000円、学生1,000円(公開フォーラムについては、参加費無料、資料代は別途一律1,000円)

【申込先・問合せ】

井ノ口宗成(新潟大)

E-mail: inoguchi@gs.niigata-u.ac.jp, TEL [025] 262-6115, FAX [025] 262-7050

川上 博(NTTドコモ)

E-mail: kawakamih@nttdocomo.com, TEL [046] 840-3870, FAX [046]-840-3781

◎最新情報と過去の研究会プログラムを下記Webページに掲載致しておりますので御参照下さい。

<http://www.ieice.org/ess/icsssl/>

主催 安全・安心な生活のための情報通信システム時限研究専門委員会

共催 国際危機管理学会日本支部

後援 NEXCO 東日本新潟支社

協賛 (第6回研究会) IEEE Circuits and Systems Society Japan Chapter
日本シミュレーション学会多次元移動通信網研究専門委員会